

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人間の健康と社会・心理的適応	NSF22_001	必修	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
笠井 海輝斗	教員控室	kango	随時メールで質問等受付		
授業の目的・概要	健康には社会・心理的側面が不可分に関わっていることを理解し、自分自身、また将来的に患者・利用者の健康と適応の増進に寄与できるようになることを目的とする。講義およびプレゼンテーションまでの過程を通して理解を深める。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	第14回、第15回にて実践することになるプレゼンテーションに向けて、第1回～第13回の内容を十分に理解し、グループ活動に能動的に参加すること。				
教科書	ストレス・マネジメント入門 [第2版] / 著: 中野敬子 / 金剛出版/2016				
参考書	「助けて」が言えない SOSを出さない人に支援者は何ができるか / 著: 松本俊彦 / 日本評論社/2019				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	社会・心理的不適応が発生する機序とその意味を理解し、習得する		NS(1)		
②	自他共に尊重したコミュニケーションの形式を理解し、日常で実践できる		NS(2)		
③	他者の社会・心理的不適応を適切に把握し、対処することができる		NS(3)		
④	健康と社会・心理的適応を支える関係者/他業種の人々の役割を理解できる		NS(4)		
⑤	健康と社会・心理的適応についての学習・調査・研究を自分なりに進めることができる		NS(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション/「健康と社会・心理的適応」をどう考えたら良いか	講義	第14回・第15回のプログラム発表までの構想を考える。	2	
2	ストレス理論	講義	ストレスの理論。ストレスチェックを理解する。	3	
3	ストレス反応	講義	ストレスへの反応。病気との関連を理解する。	3	
4	身近なストレス/「SOSを出せない問題」を考える	講義	学生、仕事でのストレス。SOSを出せない問題を理解する。	4	
5	ストレスコーピング	講義	自動思考、行動パターンを理解する。	3	
6	自己効力感	講義	人間の欲求、自己効力感を理解する。	4	
7	トラウマインフォームドケア	講義	資料等に基づき、トラウマインフォームドケアを理解する。	5	
8	コミュニケーション	講義	資料等に基づき、コミュニケーションスキルの向上を実践する。	5	
9	リラクセーション	講義	資料に基づき、リラクセーションを理解する。	5	
10	認知行動療法	講義	認知的介入法を理解する。	4	
11	アサーション・トレーニング	講義	アサーション・トレーニングを理解する。	3	
12	振り返り	講義	第1回～第11回までの資料を再読し、理解を深める。	5	
13	質疑応答/プレゼンについて	講義 グループワーク	他の学生が抱いた疑問点を理解する。	2	
14	プレゼンテーション①	プレゼンテーション	当日までにグループで予防プログラム内容を協議し、作成する。	6	
15	プレゼンテーション②	プレゼンテーション	当日までにグループで予防プログラム内容を協議し、作成する。	6	
試	達成度評価・評価のポイントを参照				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		36	39	25	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	18	0	0	0	0	18
	思考・推論・創造する力	18	10	0	0	0	28
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	10	5	0	0	15
問題を見発見・解決する力		0	9	5	0	0	14
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	✓	授業毎の最後に約10分間の「小テスト」を実施する。資料・ネット閲覧は可。各回4%を配点する。第1回、第4回、第12～15回には小テストは実施しない(4×9回=36%)。小テスト中、私語は厳禁。				Microsoft Teams上に解答(解答例)を提示する。
	②	✓	提出方法は Microsoft Forms によるデジタル形式とする。よって本授業ではPC、スマートフォン、タブレット端末などの通信機能を備えたデジタル端末が必須である。				
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①		第1回、第4回の授業最後に約10分間の「小レポート」を実施する(3×2回=6%)。また学期末に「学期末レポート」を実施する。配点は33%。合計39%の配点とする。				各自に Microsoft Teamsにてフィードバックする。
	②	✓	提出方法は Microsoft Teams へのデジタル形式とする。				
	③		詳細は授業にて提示する。				
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①		第13回、第14回に実施するプレゼンテーションの内容によって評価する。プレゼンテーションはグループにて「人間の健康と社会・心理的適応」に資するプログラムを発表する。配点は25%。				各グループに対し、評価基準に沿った評価を Microsoft Teamsにてフィードバックする。
	②	✓	グループ決定方法、プログラム内容の指針、プレゼンテーション方法、評価基準等については、別紙にて詳細に伝える。				
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	臨床心理士として6年の臨床経験、山梨県スクールカウンセラー等として3年勤務。						
実践的授業の内容	実際の臨床経験を踏まえた実践的な内容とする。						
その他	授業の資料は印刷して配布することはなく、Microsoft Teams上にアップする(授業前に自身で印刷することは可)。上述の通り「小テスト」はデジタル形式での提出とする。よって本授業ではPC、スマートフォン、タブレット端末等のデジタル端末は必須である。疑問質問等もデジタル形式で受け付ける。2コマ連続のため、デジタル端末の充電は十分に行っておくことを推奨する。						